

## 北海道ニセコ町でリーサスを活用した政策立案ワークショップを開催しました

平成29年2月  
内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局  
内閣府地方創生推進室  
経済産業省北海道経済産業局

北海道ニセコ町にて、町民や観光・経済政策に携わる職員等を対象に、「地域経済分析システム（RESAS）」を活用した政策立案ワークショップを下記の通り開催しました。観光分野の専門家である首都大学東京 都市環境学部 自然・文化ツーリズムコース 清水哲夫教授の参加を得て、ニセコ町の課題を見える化し、意見交換を通じて、増加する観光客や投資により、「ニセコ町は本当に観光で稼げているのか」を考える契機となりました。

### 記

1. テーマ : 「ニセコは観光で稼げているのか」
2. 日時場所 : 平成28年12月20日（火）18-20時、ニセコ中央倉庫群 旧でんぷん工場
3. 主催 : 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進室、経済産業省北海道経済産業局、ニセコ町
4. 参加者 :
  - ・ニセコ町 町長、職員（企画環境課）
  - ・北海道後志総合振興局職員
  - ・倶知安町職員
  - ・株式会社ニセコリゾート観光協会
  - ・ニセコビュープラザ直売会協同組合
  - ・北洋銀行（倶知安支店）
  - ・北海道銀行（岩内支店、NISEKO 事務所）
  - ・町民
  - ・首都大学東京 都市環境学部 自然・文化ツーリズムコース 教授 清水哲夫氏
  - ・内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局職員
  - ・経済産業省地域経済産業グループ職員
  - ・経済産業省北海道経済産業局職員
5. 議事次第
  - ① 自治体職員によるリーサス分析結果発表
  - ② 有識者によるリーサス分析結果発表
  - ③ 政策ディスカッション

## 1. ワークショップ実施の背景

- ニセコ観光圏（ニセコ町、倶知安町、蘭越町）は、国内外を問わず多くの観光客が訪れ、ホテル建設等の観光投資も活発であるなど、観光が町内経済の柱の一つ。
- そこで、ニセコ町は本当に観光で稼げているのかを検証するため、リーサスの活用により、現状分析を行い、強みのある食を活用した外国人観光客の観光消費拡大策等について、地域関係者や町民を交え、様々な観点からディスカッションを行った。

## 2. 議論のポイント・得られた結論・今後の展開

### <ニセコ町における観光の現状と課題>

- 冬季の宿泊客延数は道内6位とトップクラスで、アジアを中心に外国人観光客も多く訪問している。また、外資系ホテル建設等の観光投資も活発化している。
- 一方、地域経済循環図で、町内産業の生産額等を見ると、民間消費や観光業の生産額は、町外への支出が超過しており、町外調達に依存している。また、町民所得や町の財政力指数も周辺市町と比較して相対的に低い。
- 以上より、観光客や投資の増加が地域の稼ぎに十分つながっていないことが把握されたため、スキー場に多く集まる外国人観光客をターゲットに、町内の観光消費を増やすなどの取組が必要である。また、ニセコを含む岩内地域は有効求人倍率が道内で最も高く、特にこれらの施策を担う観光業の人材が不足していることから、人材確保も必要である。

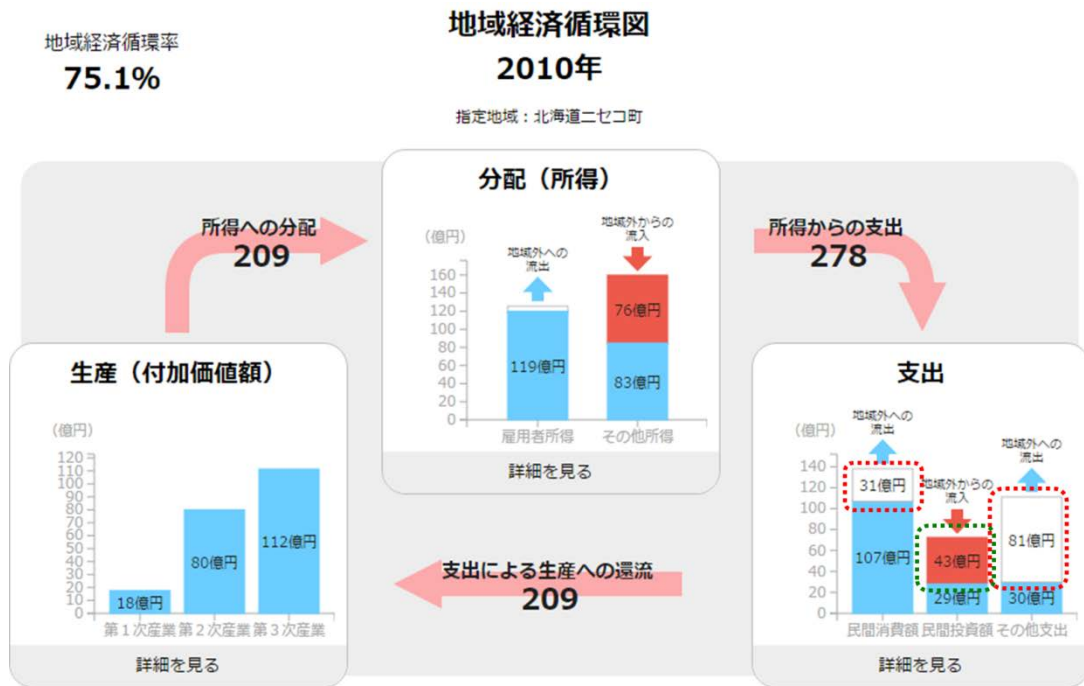
### <食を活用した観光消費拡大策の提案>

- 農林水産業は、町内で唯一、移輸出入収支がプラスであり、町外から資金を稼いでいる産業。また、町内では多種多様な農産物を販売しており、豊富なメニューを提供できることが町の「食」の強みである。
- 農産物を販売している道の駅ニセコビュープラザは、町外からも訪問客が多く、「食」の魅力を発信する拠点となっているものの、冬季は訪問客が少ない。加えて、スキー場と町内を結ぶ交通網が脆弱なため、外国人観光客の周遊も見られない。
- 外国人観光客の観光消費拡大を図るには、道の駅に集まる多種多様な食材を活用した料理をスキー場まで届ける施策や、公共交通の運行の最適化等により町内へ周遊しやすくする施策等が有効である。また、地域おこし協力隊を地方創生の観点から戦略的に導入して、これらの取組の人材確保にも努める。

### <分析内容・政策提案に関するディスカッション>

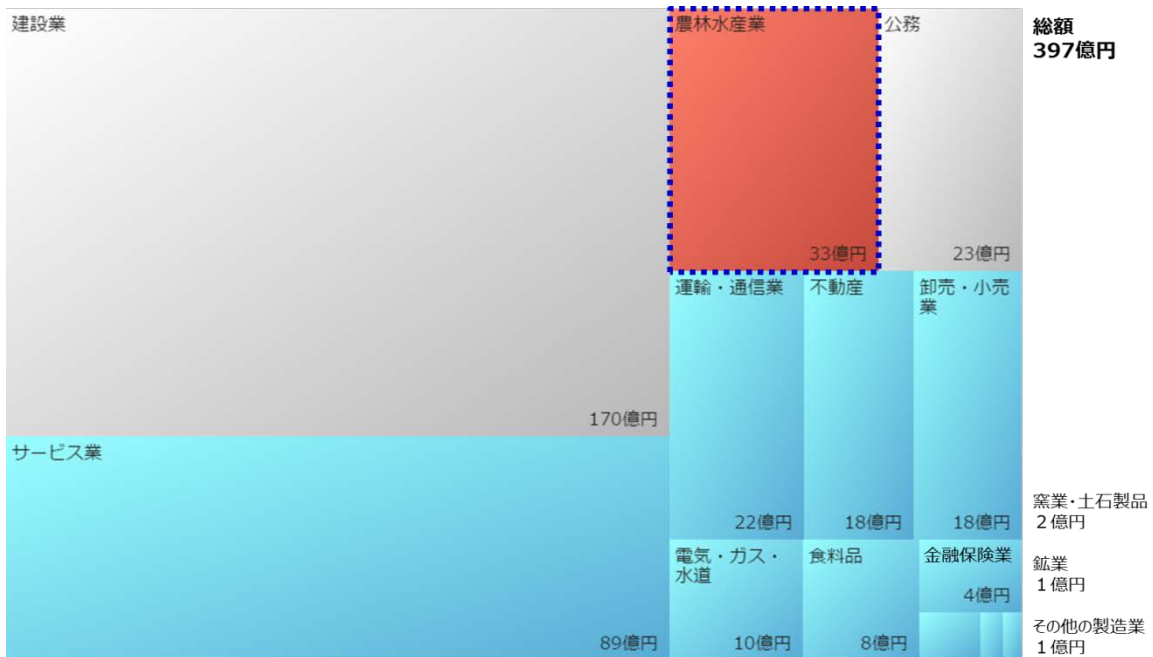
- 観光で稼いでいくためには、物資の地域内調達率・観光消費単価・観光客数の増加が必要。宿泊率が高いニセコの観光客の周遊や消費動向について、RESAS や SNS、カード決済等のデータを複合的に用いて把握し、対応する施策を検討すると良い。
- スキー場までの配達を効果的に実施するには、デリバリー専門業を創業し、スキー場にいる観光客の注文から、町内飲食店が調理した料理の集約、配達まで一手に行うシステムを構築できると、運送費や手間が削減でき、効率的ではないか。
- 人材確保において、季節により仕事の組み合わせを工夫して通年雇用を創出することや、一人が受け持つ業務の多様化、機械化等の生産性向上を図る取組も重要である。

ニセコ町は、町外からの民間投資が多く得られている一方、民間消費や調達を町外に頼っている。



RESAS 地域経済循環マップ－地域経済循環図（2010年）

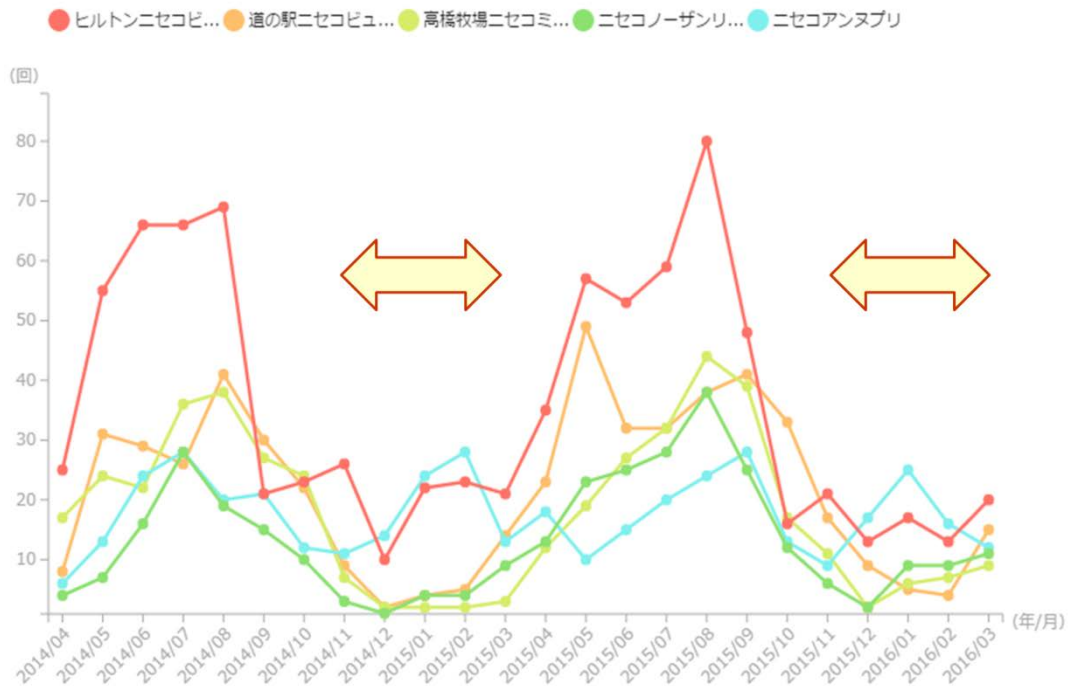
ニセコ町の基盤産業の一つである観光業でも、町外への支出が超過している（＝観光客や投資の増加が、観光業の稼ぎにつながっていない）おそれ。



※赤：町外から資金を稼ぐ産業、青：町外へ支出が超過している産業、グレー：移輸出入収支ゼロ

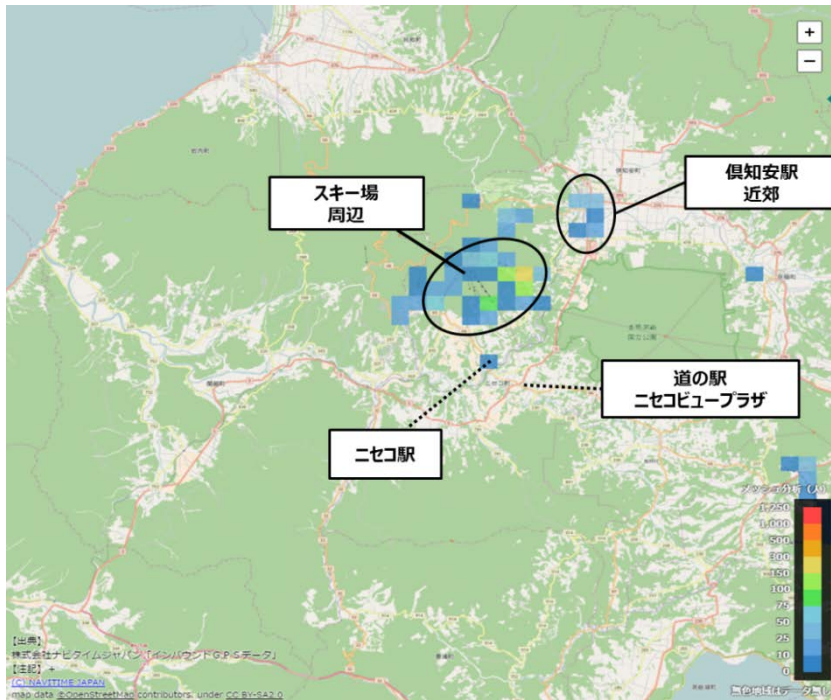
RESAS 地域経済循環マップ－生産分析－生産額（総額）中分類（移輸出入カラー）（2010年）

多種多様な農産物を販売している道の駅「ニセコビュープラザ」の訪問者は、冬期（11月～3月）に少なくなる。



RESAS 観光マップ－目的地分析－目的地検索ランキングの推移（2014年4月～2016年3月、休日、自動車）

ニセコエリアの外国人観光客は、スキー場周辺とニセコ町の隣町である倶知安町中心部に多く来訪しているものの、ニセコ町中心部への来訪は少ない。冬期の食事・交通難民化をいかに防ぐかが課題となっている。



RESAS 観光マップ－外国人メッシュ分析（2015年4月～2016年3月）

以上